



～燃えろ、熱くなれ足高健児！～

第3号 2019/11/29発行
栃木県立足利高等学校
進路指導部

2学期の終盤に・・・

保護者のみなさまへ

進路指導主事 栗原 秀之

2学期も終盤になりました。1年生は、ほぼ文理選択希望も固まってきているかと思います。本調査は年明けになる予定です。また、2年生では修学旅行も終わり、いよいよ来年度の受験に向け、本格的に受験勉強を始めているべき時期です。乗り遅れることのないよう、ご家庭でもよろしくご指導お願いします。3年生では模試もほぼ終了し、結果を踏まえて受験計画を立てていく時期です。12月からは3者面談も始まります。また、大切な時期ですのでお子様の体調にご留意ください。

今回は2名の先生の高校生時代の教科の学習についてのお話を掲載します。また、2年生の進路指導について今年度を振り返ります。

杉 真幸 先生（日本史）の高校時代の英語

私が高校時代に実践していた英語の勉強法について、参考になるかはわかりませんが、少しでも以下に述べさせていただきます。

1つ目は、授業に臨む前に予習をしたことです。高校時代の英語の授業では、毎回指名されるということもあり、予習を欠かしませんでした。予習をすることで授業の理解が進み、授業に余裕をもって取り組むことができました。基礎的な内容を学習するには、予習を続けていきましょう。

2つ目は、単語を多く覚えたことです。当たり前ですが、単語を覚えると意味が理解できました。授業で行う単語テストに常に真剣に取り組んでください。後々、絶対に役に立ちます。

上記で述べたことは当たり前のことで、速効性ありません。しかし、毎日続けていくことで成果が出ると思います。「No shortcuts over the road」（地道に勝る近道なし）です。

島崎育巳 先生（化学）の高校時代の国語

理系として志望校の配点等から文系科目でセンター試験6割～7割以上を目標にしていた私は、古典では、原文をノートに写し、単語を調べ、自力で意味の通る日本語に組み立てるという、当たり前の予習を徹底しました。これはあるとき、授業で教わる訳やワークでごまかして定期テストを乗り切っても入試には対応できないと実感し、定期テストのためだけのような無駄な勉強はしたくないと考えたためです。地道に自分で作った訳と教わる訳を比較するのは半ばクイズのようで、正解でもハズレでもその内容が強く印象に残り、その繰り返しで知識として蓄積されていったと思います。また、ワークも多少時間をかけてでも自力で解くようにしました。いい加減にやって解答を見て直すより、もう少し時間をかけて自力でやった方が得るものがあつたからです。

文系科目に特別に力を入れたつもりはありませんでしたが、いわゆる受験勉強を始めるまでは、理系科目と同等の時間をかけていました。かけなければ目標に届かなそうだったので、試行錯誤して最終的にそれだけの時間をかけることになったというのが実際です。結果的に、特別なことよりも凡事徹底をしたことが一番力になったのかなという気がします。

2年生の進路指導

4月には昨年度末3月に実施したスタディーサポートを用いて入学以来の学力や学習習慣、生活習慣の変化をもとに担任が面接を行いました。スタディーサポートは9月と来年3月にも実施し、今年1年間の変化を追ひ、面接等に生かしていきます。特にこの9月の結果については、必要と思われる生徒には教科担任面接、学年副主任面接、学年主任面接を実施し、生活・学習習慣の改善を促します。

昨年度は学年で東北大や新潟大のオープンキャンパスへ参加しましたが、今年は各個人で2校への参加を促し、報告書を提出してもらいました。また、入試での小論文対策として小論文の書き方の学習を行いました。12月には講師を招いて講演をいただき、小論文模試を行います。赤ペンで丁寧に添削された結果が返ってきます。

さらに、進路探究の一助として、10月には職業進路講演会が開かれ、足利ロータリークラブさんの協力で様々な職業の方に来ていただき、講演いただきました。今年度は、会計士、医師、学者、芸術家、会社の経営者・・・の方々に来ていただき、どのようにして現在の職業に就くことになったか、またその職業の実際についてお話いただきました。また、11月には大学出前講義として、東北大、筑波大、群馬大・・・などから11名の先生方においでいただき、その大学の説明や、研究内容などについてわかりやすくご講義いただきました。

模試もこれからは5教科全てが対象となり、2月には初めての共通テスト対策模試が行われます。